



みらいつうしん

5月号

2017年5月1日
 田園調布学園大学
 みらいこども園
 園長 長南 康子



息吹を感じながら

風薫る5月です。草木が一斉に芽吹き、通勤途中の車窓から、鮮やかな緑が目に入り心が癒されます。また、歩道の片隅にも可愛い花や雑草が顔を出し、健気に生きる命の素晴らしさを感じます

さて、入園・進級して、ひと月が経とうとしています。新しい環境に全神経を研ぎ澄まし、精一杯の時間を過ごしている子ども達の姿は、新緑の息吹と同じように思えます。萌え出る芽吹きですから、その力強さは、もの苦しいほどのものです。その力に対するためには、私たちも力を蓄えなければなりません。力というと体力が結び付きますが、それだけではありません。一人一人の芽吹きをどのように捉えて、どのように受け止めていくか保育者として溢れる思い、感じ方、愛情が試されます。

伸びていこうとする芽をどのように支えていくか。芽吹きの際は強いエネルギーが放散されています。キラキラ・パチパチ音がするようです。その音を聴きとらなくてはなりません。芽吹きの様子は一様ではありません。はっきり表現する子ども、ぐっと我慢をしている子ども、情報が入りすぎて混乱している子ども、様々です。ですから、こちらも真剣勝負で心から関わらなくてはなりません。そうしなければ子ども達一人一人が何を求めているのか教えてもらうことはできません。

大勢の子ども達の中で、一人一人の思いに近づくために保育者は高い資質が求められます。集団の中のAちゃん、Bちゃん一人一人と心の繋がりを付けることが重要です。

保育者は前を向いていても、後ろの様子が見えている。Aをしながら、Bも視野に入れる。今はこうだけだけどきっとこうなると予想して動いている。保育者が学び続けることに限りはありません。

子ども達が、子どもらしく、自分らしく、そのままの姿で夢中になって遊びに取り組めるようになるまでには、まだ、しばらく時間が必要かもしれません。しかし、慌てずに、少しずつ保育者に信頼を寄せてもらえるように、新芽がすくすくと伸びていくような子ども達を支えるために保育者として感性を研ぎ澄ませる修業を続けたいと考えています。

ゴールデンウィークは、ゆっくり穏やかに過ごしていただきたいと思います。 (長南)



給食のメニューは『カレーライスと胡麻酢和え&イチゴ』3歳児保育室で



土や草、砂や水とたくさん触れて遊ぶ子ども達 2・3歳児園庭で



子どもたちは、少しずつ新しい環境に馴染み笑顔も多くみられるようになりました。ところで、「セロトニン」という言葉をご存知ですか？【人間の精神面に大きな影響を与えて心身の安定に関係する＝幸せホルモン】と言われています。長いお休みを迎え、お家で心をリラックスさせてあげたいものです。では、どんなふうにか寝ている時、抱っこされている時に「セロトニン」という物質が分泌される訳です。絵本を読んでもらっているときに子どもに分泌され、さらに読んでいるお父さんやお母さんにも分泌されるといわれています。絵本は色々な世界を楽しんだり親との心の繋がりがや安心感となったり翌日への活力にもなります。

副園長 久富紀子

3歳児クラスの新入園の子どもが2人で遊びながら「園歌」を歌っていました。ごきょうだいがか園児でしたので、家で歌っていたのかなと考えると嬉しくなりました。不安や緊張の中にも心が弾むような瞬間が垣間見られるようになってきました。涙が笑顔に変わっていく子どもの姿を見ながら、一人一人の子どもにとって明日が楽しみとなるようなその子のための園造りをしていきたいと思い新たにしました。 主幹保育教諭 中城真由美

